平成22年度　運営諮問会議開催要項

１．日　時　平成２２年１１月４日（木）１４時００分～１６時３０分

２．会　場　宇部工業高等専門学校　大会議室（管理棟３階）

３．出席者

○運営諮問会議委員（五十音順）

阿　山　隆　夫　委員	金　重　和　義　委員
品　川　　博　委員	野　村　和　芳　委員
堀　　憲　次　委員	山　田　隆　裕　委員

○宇部工業高等専門学校職員

福 政　修　校長	杉 本 信 行　副校長（教務主事）
山 下 祐 志　校長補佐（学生主事）	落 合　積　校長補佐（寮務主事）
吉 田 政 司　専攻科長	藤 田 和 孝　機械工学科長
岡 村 好 庸　電気工学科長	山 根 健 治　制御情報工学科長
小 倉　薫　物質工学科長	伊 藤 孝 夫　経営情報学科長
薄 井 信 治　一般科（文系）科長	金 田 昭 久　一般科（理系）科長
髙 橋 正 和　図書館長	内 田 保 雄　情報処理センター長
山 﨑 博 人　地域共同テクノセンター長	品 川 恵美子　技術室長
村 田 正 一　事務部長	岡 﨑 幸 治　総務課長

４．日　程

14時00分　開　　会

校長挨拶

運営諮問会議委員及び宇部高専出席者の紹介

議　　事

一、委員長選出

二、委員長挨拶

三、報 告 事 項

(1) 宇部工業高等専門学校の年度計画について

（説明者：福政校長）

15時10分　休　　憩

15時20分　四、諮 問 事 項

(1) 宇部高専のキャリア教育について

（説明者：品川教授）

(2) 地域連携・社会連携について

（説明者：山﨑地域共同テクノセンター長）

16時20分　委員長挨拶
　　校長挨拶
16時30分　閉　　会

運営諮問会議配付資料

1．運営諮問会議席次表
2．運営諮問会議開催要項
3．宇部工業高等専門学校　運営諮問会議規則
4．宇部工業高等専門学校　運営諮問会議委員名簿(出席者)
5．宇部工業高等専門学校　要覧
6．2011宇部高専学校案内
7．宇部工業高等専門学校の今後の展開
8．宇部工業高等専門学校中期目標
9．宇部工業高等専門学校中期計画
10．宇部工業高等専門学校平成21年度計画実績報告
11．宇部工業高等専門学校平成22年度計画
12．宇部高専 平成22年度年度計画のフォローアップ
13．本校におけるキャリア支援について
14．本校における地域連携・社会連携について
15．宇部工業高等専門学校地域共同テクノセンターリーフレット
16．宇部工業高等専門学校地域共同テクノセンター　Ｎｅｗｓ＆Ｒｅｐｏｒｔｓ
17．宇部高専情報 No.71（就職・進学特集号）
18．2012 採用のための学校紹介
19．平成22年度『地域企業人のための宇部高専学校見学会』のご案内(当日配布)
20．「寺子屋づくり」講座を開講 ＝ 宇部工業高等専門学校(当日配布)
21．宇部高専ＳＥＥＤＳ＆ＮＥＥＤＳシンポジウム2010(当日配布)

議　事

（１）開会

総務課長の進行により，運営諮問会議が開会された。

（２）校長挨拶

校長の福政でございます。委員の皆様には，大変お忙しい中，本会議に出席いただき，誠にありがとうございます。

学外の有識者の方々にご意見を伺って，それを学校の運営に反映させる仕組みは宇部高専では，平成15年に運営顧問会議を設置しまして概ね２年毎に開催して参りました。さらに，外部評価委員会を設置して不定期に開催しておりましたが，今年度から第２期の５年間がスタートをするということで，これらを再編統合しまして運営諮問会議として改めさせていただきました。本日が第１回目の会議となります。年度の押し迫った開会となりましたので，本日は顔合わせという感覚で委員の意見を平成22年度以降の運営に反映させていきたいと思っております。

平成１６年４月に独立行政法人国立高等専門学校機構としてスタートしまして，本校も機構の中の１つとして動いております。第１期の中期目標の期間が平成20年度を以て終了し，本年度から第２期目がスタートするという時期に当たっております。本校でも高専機構の中期目標・中期計画を基に新たな年度計画を策定いたしまして，実施を始めたという段階でございます。

本日は，話題提供という形で大きく分けて３つ話題を考えておりまして，ご意見を伺いたいと存じます。

１つ目は，宇部高専の概要を含めまして第２期の中期目標・中期計画についてでございます。２つ目は，人材育成ということで，技術者養成ということを謳っておりますが，教育の質の保証ということでそれに関わる教育プログラムの概要をお話したいと思っております。それから，最後の３つ目が宇部高専の活動の中で地域社会との連携に関する話題でございます。

宇部高専は２年後の平成24年には，創立50周年を迎えます。それで，我々は設立の原点に立ち戻って実践的な中核技術者の養成に徹する。そして，大学とは異なる高等教育機関として地域に役立つ宇部高専を目指しております。今，申し上げました３つのテーマをお話し，ご意見を伺いたいと思っておりますので，よろしくお願いします。

（３）委員・出席者紹介，資料確認，日程説明

総務課長から，本日出席の運営諮問会議委員並びに宇部工業高等専門学校出席者が紹介された。

引き続き，総務課長から，配布資料の確認が行われ，運営諮問会議実施要項を基に日程の説明があった。

（４）委員長選出

総務課長の進行により，運営諮問会議規則の規定に基づき互選により議長の選出が行われ，堀委員（山口大学工学部長）が選出された。

（５）委員長挨拶

（堀委員長）

一言ご挨拶をさせていただきます。

以前，運営顧問会議開催の際に委員長を務めさせていただきましたが，改めて委員長を務めさせていただく山口大学工学部長の三浦です。

今，校長からご説明がありましたけど，高専は第１期中期目標・中期計画が終って，第２期中期目標・中期計画に入り非常に大事な時期に入っているのではないかと思います。これまで高専の動きとしまして，県内の３つの高専が合併か，或いは大島商船だけ別の動きをするかという動きがあったかと思いますが，今，合併から教育の充実，高度化というふうに方針が変わっていると聞いております。今回もそのあたりの議論があると理解しております。

この会議の仕事としましては，宇部高専の教育研究活動及び運営に対して色々なご意見をいただきまして，それを校長に提案することになっております。そういうことで忌憚のないご意見を出して貰って，少しでも地元の宇部高専が発展しますように有意義な意見をさせていただければと思っておりますので，よろしくお願いします。

それでは，議事に入らせていただきます。

（６）審議事項

① 宇部工業高等専門学校の年度計画について

（堀委員長）

まず，最初の議題であります「宇部工業高等専門学校の年度計画」につきまして，福政校長から説明をお願いします。

（福政校長）

では，説明をさせていただきます。

宇部高専の概要としまして，主に緑色の要覧を参照しながら御説明していきたいと思います。

宇部高専のことをご存じの方もおられると思いますが，運営諮問会議になりまして新しく委員になられた方もおられますので，宇部高専のことが分からないということを前提に説明させていただきます。

要覧１ページを捲りますと写真が出ています。宇部高専の概要です。常盤公園に面しまして，東側に寮地区，道路を一本隔てまして左側が校舎地区になっております。さらに左側が，道路を隔てまして工学部と接しているという状況です。敷地としては，全国の高専の中では広くない方で，こぢんまりとした敷地になっております。

次のページの２ページを御覧下さい。宇部高専の構成ですが，創立が昭和 37 年(1962 年)で，現在５学科，機械工学科，電気工学科，制御情報工学科，物質工学科及び経営情報学科の５学科体制，そして専攻科が３専攻，生産システム工学専攻，物質工学専攻及び経営情報工学専攻という５学科３専攻の体制になっております。

歴史的なことをご説明しますと，８ページを御覧下さい。先ほど創立が 1962 年と申しましたが，1962 年 4 月に宇部工業高等専門学校が開校しております。開校当初は，機械工学科２クラス，電気工学科１クラスの計２学科３クラスでスタートしております。1966 年に工業化学科が設置されて，３学科４クラスになりました。1988 年に制御情報工学科設置とありますが，これは機械工学科の１クラスを改組した形で制御情報工学科を設置しまして，４学科４クラス体制になりました。1990 年に工業化学科を物質工学科に名称変更の形の改組をしました。そして，1992 年に経営情報学科が設置されまして，現在の５学科体制が整ったということになります。その後，1997 年に専攻科が設置されました。設置当初は，２専攻でした。生産システム工学専攻は，物理系の３学科，機械工学科，電気工学科及び制御情報学科の上に位置づけられるもの，そして，もう１つは物質工学科の上に位置づけられる物質工学専攻の２専攻です。さらに，2005 年に経営情報工学専攻が設置されまして，専攻科がこれで３専攻体制になり，現在の５学科３専攻の体制になったということです。

それでは，６ページを御覧下さい。高専の制度と目的ですが，高専はどういう目的で設置されたかといいますと，高等専門学校は優れた専門技術者の養成を目的とした５年制の高等教育機関であり，５年一貫教育により高校＋大学のレベルまでの一般科目と専門科目を学び，大学と同等の教育を学ぶことが出来るという制度，目的で設けられたものです。昭和 36 年に制定され，昭和 37 年に 18 校が設置されました。宇部高専は国立の 12 校の中の１つです。全国で最初に設置されたグループに入っております。現在 55 高専と書いてありますけど，現在，正確にいいますと一部統合しまして，高度化再編ということですけれども，４地区で２つの高専が１つの高専になっておりまして，現在は，国立５１高専になっております。その制度は，６ページの下の図を見て貰うと分かりやすいですけど，中学校から上の教育課程が書いてあります。下の長い部分が中学校３年間の課程で，そこから上の教育課程が大きく２つの山になっております。右側が高等学校３年間の課程，さらにその上基本的に大学４年間の課程，そして大学の中で大学院修士課程，博士課程というのが１つの教育課程です。左側の山が高等専門学校の教育課程です。５年間の課程とその上に２年間の専攻科の課程があります。図を見て

貰うと，「高校－大学」との課程と比較すると５年間の課程というのは，高校３年間と大学２年までの位置に相当します。そして，専攻科２年間の課程が終わったところで大学４年生を終わったところと同等ということになります。実際，専攻科２年間の課程を修了すると学位授与試験を受けないといけませんが，学士の資格を得ることが出きます。大きく２つの山があるのですが，左右編入で行き来出来るような道が開かれています。これが高専の制度です。こういう高専の制度の中で，宇部高専はどういう目的で教育しているのか，ということが４ページに学習・教育目標として書いてあります。１行目に，「本校は，「もの」づくりを得意とする技術者の養成を目指します。」と，技術者の育成機関だということですね。それを教える側－教員側，受ける側－学生側共通に認識してもらうために，学習・教育目標を揃えていまして，□で囲ってあります３本柱，①創造力を備えた技術者，②「もの」づくりを得意とする技術者，③人間性豊かな技術者を養成すると，一般的には３つ続けて，創造力を備えた「もの」づくりを得意とする人間性豊かな技術者を育成するというのを学習・教育目標と考えております。それぞれに関係する授業科目を受けることで，色々な能力を身につけて最終的に国際的に通用する素養を持った技術者を育成するというのが宇部高専の目的になっております。

こういう教育をする体制ですが，今度は10ページを御覧ください。組織のところなのですが，スタッフがどれだけいるのかということです。一番上の表，教員と職員の数が書いてあるのですが，教員は右側３番目小計のところ81名おります。技術職員，事務職員は併せて49名おり，計130名で５学科約1，000名の５年間の課程の学生，それから，専攻科約60名の２年間の課程の学生の教育を行っております。

さきほど，高校と大学が一緒になったようなものだと言いましたが，実際の教育の中身をごく大雑把に説明しますと，例えば12ページを御覧ください。ここは，一般科目と書いてあります。内容は13ページの表にありますように，国語，社会，数学，理科など普通高校で学ぶような内容の科目です。こういうのを主に低学年で学ぶようになります。一方，専門科目ですが，それぞれの入学の時点から５つの専門学科で入ります。例えば，機械工学科で専門科目を説明しますと，18・19ページですが，19ページの表を御覧ください。大学で学ぶような専門科目が並んでおります。高専では，一般科目と専門科目を低学年のうちは一般科目が多く，高学年になると段々と専門科目が増えていくという楔形の教育を行っております。そして，さらに19ページの機械工学科の例ですけど，実験，実習に力を入れております。例えば，上の履修科目の分類の中で工作・電子実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとか，それから，必修科目の中に応用工学実験Ⅰ・Ⅱ，工学実験，それから卒業研究というような実技科目を重視しています。

これが教育課程で，あと，特徴的なこととしまして，一つは42ページを御覧ください。国際交流のところですけど，宇部高専と海外の大学と学術交流協定を締結しております。オーストラリアのニューキャッスル大学等ここには５校あるのですが，つい先日，12月にもう１つロシアのアムール人文教育大学と学術交流協定を締結しまして，６校と協定を締結しております。学生が行き来したり，教員が行き来したり合同でシンポジ

ウムの開催などを行っています。

それから，右側43ページ財政面ですが，宇部高専がどの程度の規模の予算でやっているのかということなのですが，43 ページの左上表が収入決算額と書いてある表で，大雑把にいいますと運営費交付金，国からくるのが 11 億位で諸々の収入を合わせて17億位の予算で，宇部高専は教育を行っています。

そして，この要覧はこれくらいにしようかと思いますが，最後に49ページを御覧ください。これは，学生がどの地区から来ているかということを示しているものなのですが，49 ページ下半分の地区を見ていただくと，この数字は人数を表しておりまして，宇部，山陽小野田地区から約600名，全校学生が約1000名ちょっとなので，6割くらいが宇部，山陽小野田地区です。その次に多いのが，下関地区の約200名，そして山口地区から150名くらいというふうに県の西部から主に学生が集まっております。

要覧はこれほどにしまして，本日の追加資料で入試倍率の変化というのを出させていただいたのですが，色々と学生を集めるために努力した結果，現状はこうなっています。平成 16 年度からの入試倍率がどう変化したのかをグラフにしてみました。5学科とそれから少し太めの茶色の線〇印のマークが平均値です。平成16年度に1.75あったのですが，徐々に減って平成21・22年度に少し増えているという傾向があるということです。赤い点線が真ん中くらいにありますが，これは平成16年度の本校の入試倍率で規格化した中学3年生の人数の割合です。大体中学生の人数の減少と同じ割合で志願倍率も少しずつ減少しているといえます。少し上下はありますが。ただ，平成21・22年度は少し上昇しているので，色々なＰＲ活動，それから社会情勢もあるかもしれませんが，少しは志願者が増えている状況ではないかと見ています。

これが入り口の方で，今度は出口の方ですが，次の2枚目の資料になりますが，求人状況がどうかということですが，やはり社会情勢によりますが，平成16年度から書いてみました。ピークは平成19年度だったですけど，その後少し社会情勢が悪くなって減ってはいるのですが，それでも相当な人数の求人が現在でもあります。延べ人数と求人の倍率で書いてみました。中には進学する学生もおりますので，就職希望者の人数に対する求人倍率でいくと現状でも20倍を超えているという状況で，出口の方は，現時点では問題ないと判断しています。そのもう少し詳しい資料が「宇部高専情報」です。これを見ていただくと，進路，進学先が１ページ目に出ています。緑色で網掛けしているところです。中国地区の大学とか，北九州・福岡地区の大学あたりに進学者が多い状況です。そして，就職先に関しましては，中１ページ目を捲っていただき見ていただくと各学科の就職先が具体的に書いてあります。

以上，宇部高専の概要とさせていただきます。

（三浦委員長）

どうもありがとうございました。

何かご質問，ご意見等がありましたらお願いします。

（三浦委員長）

では，私の方から，質問させていただきます。就職状況のところで，就職希望者で割るとこれくらいの求人倍率があるという説明がありましたが，専攻科学生の就職希望者もこの中に入っているのでしょうか。

（橋本副校長）

はい，入っております。専攻科は進学，就職の割合は半々くらいです。倍率でいうと専攻科の方が多いです。専攻科学生の人数が少ないので，高くなります。

（三浦委員長）

求人先は，地元が多いのでしょうか。

それとも全国からでしょうか。

（橋本副校長）

山口県内は，大雑把に10%くらいで，あとは本社のある東京地区，その他併せまして全国から延べ500社ぐらいです。５つの学科がありますので，１つの会社から複数の学科に求人が来ておりますから，3,000人近くの求人状況になろうかと思います。

山口県内の希望者はいるので，もう少し県内企業の求人状況が欲しいと思っております。

（三浦委員長）

工学部の話をご参考までにしますと，大体県内に就職しているのが，五百数十人のうち50名，やはり10%程度です。昨年が520人のうち30名，今年も30名前後です。光井会頭とお話しまして，やはり優秀な人を地元に残したいと，確保しないといけないのではないでしょうか。どうしても，地元の企業は初任給が低いですよね。都市の企業と比べると，中身はむしろこちらの方が濃いいのではないかと思います。生活も人間らしい生活が出来ますし，それとか大都市は福利厚生施設が充実していないとなかなかリフレッシュが出来ないけれども，こちらは山も海もすぐ近くにありますので，人間らしい生活ができるというようなことを学生さんの方へ宣伝して，優秀な学生さんが地元へ残るようなことを少し我々も考えなければいけないと思っております。また，地元企業とも色々やっていく必要があるかと考えております。

（橋本副校長）

私も地域ともう少しパイプを強く持つ必要があると思っております。入学時点では，わりと地元に就職出来たらという希望者は多いようです。ただ，実際求人にこられる数がそんなに多くありません。それでも，就職の割合で比べると工学部よりは率は高いようです。毎年約200名卒業するのですが，そのうち約120名就職します。その120名のうち３分の１の約40名は県内に就職します。ですから，工学部に比べると率は高い

ようです。

（三浦委員長）

地元中学校からの入学者の割合が６割くらいですか，そのあたりを考えますと少ないかもしれませんね。工学部で25％くらい，やはり約120名県内から来ていますけど，３分の１にも満たない30名くらいしか残りません。光井会頭，このあたりを色々とご検討いただけたらと思います。やはり地元に元気がないと，元気の良い優秀な学生が地元で元気よく働ける場がないといけないと思っております。

（三浦委員長）

他にいかがでしょうか。

他にないようでしたら，次の議題に移らせていただきます。また，何かありましたら最後に纏めてお伺いします。

②宇部工業高等専門学校の第２期中期目標・中期計画について

（三浦委員長）

それでは２番目の議題で，宇部工業高等専門学校の第２期中期目標・中期計画について，福政校長から説明をお願いします。

（福政校長）

それでは説明させていただきます。資料としては，中期目標・中期計画，それから，年度計画，宇部工業高等専門学校の今後の展開という１枚もの，これを少し説明させていただきます。

宇部高専の話に入る前に少し高専機構全体のことをお話させていただいて，それから宇部高専というふうに進めていきたいと思います。

宇部高専も２年後に50周年になりますけれども，高専が出来て，大体，40数年になります。現場に役立つ技術者の育成という教育的観点から，工業界からも高く評価されています。そして，ＯＥＣＤの日本の高等教育に関する調査団でも高く評価していたということが１期目の５年間の中でございました。それで，５年間の第１期中期計画が終わった時点で，外部評価では５段階評価のうち，ほとんどの項目がＡになっており，大体予定どおり達成されていると，中には２項目くらいＳ評価があったということを私の就任時の理事長挨拶の中でもありましたけど，第１期目の評価は非常に高い評価だったと聞いております。この状態で第２期目もということでした。ただ，その中で，１つＢ評価といいますか予定どおりになってなかった項目がありまして，これは少子化で入学志願率が最初立てた数字目標が高専の方で志願倍率が２倍と言っていますけれど，これが達成出来なかったということがございました。大体，高専1.7倍くらいで宇部高専もそういうレベルであると思いますけれども，そういうことを背景にして第

１期目の中で高度化再編という言い方になっていまして，技術の高度化とかそういうことで，本科生の学生定員を少し減らして専攻科の数を増やすというそういう形での統合再編というのが，４地区で計画されて，昨年10月１日で，宮城県仙台地区，富山，香川，熊本こういうところで，工業高等専門学校と電波高専が一体になるとか，商船高専と工業高等専門学校が一体になるというそういう形が４ヵ所で起こって，これまで55高専と言っていたのが51高専になっております。４地区は，今度の入試から統一した高専として入学者を迎えるという形になっております。山口県でも３つ高専があるわけで，前任の幡中校長から伺った時に，山口県でも統合再編ということについて話が機構からあったと聞いております。しかし，具体的には先ほど申しました４地区での統合再編というのが法案として出され認められて，それ以外はそれぞれの高専の特徴を生かして地域のニーズ，それから高度化ということで特徴を出せということで動こうとしているというのが状態でございます。そういう背景の基に第２期目ということで宇部高専の中期目標というところ教育理念・養成すべき人材像，これは数年前からこういうものを作ってやっているということで，前文になっております。そして，２ページの目の業務の質の向上に関する事項，そしてそれの１，教育に関する目標，それから（入学者の確保），（教育課程の編成等）太字の部分というのは，これは高専機構の方が２期目の中期目標というところで，こういう項目を挙げて色々機構が目標，それからそれに対する計画，さらに計画の５年間の年度計画というのを落とし込む形になっておりまして，宇部高専でもこの枠組みに沿って宇部高専としてはどういうふうにそれぞれの項目のところの内容を積み上げていくかということで作成しております。事前に配布させていただきましたので，見ていただいておられるかと思いますが，太字の枠組みというのが高専機構で挙げている枠でございまして，それに対して宇部高専ではこういうふうに考えているということでございます。そして，目標に対して，計画というのは，その目標を達成するためにいくつかの具体的な計画を挙げてあります。さらに年度計画というのは，その一つ一つの計画に対して，21・22年度では具体的にはその項目のところでこういうことをやりますということを年度計画という形で纏めさせていただいております。目標と計画というところ大分精査はしておりますけれど，計画のところでも目標というか努力目標になっているところも多少あるかもしれませんが，大体こういう目標・計画でこの５年間を動かしたいと考えております。

そして，それを１枚ものにして纏めてありますのが，「宇部工業高等専門学校の今後の展開」という１枚ものでございます。最初の挨拶でも申し上げましたけれども，宇部高専としては設立当時と今とでは違いまして，技術の高度化とか産業構造の変化，さらにはグローバル化ということが言われておりますので，そういうものを意識したうえで，創造力と実行力を持つ人間性豊かな実践的な中核技術者の育成という原点に立ち戻ってこれに徹する，そして，大学とは異なる高等教育機関として地域に役立つ宇部高専を目指すということを掲げており，これを実現するための中期目標・中期計画であるととらえております。そして，先ほど何ページかに渡っての目標・計画がありますけれども，大きくは志願者の確保ということで，機構では２倍と言っていますけど，

今，山口県内の高校の志願状況を見ていると定員程度のところになっているところで，２倍をというのは地元の教育界からすれば何だというふうに言われるかもしれませんが，機構としては２倍という目標を掲げているものですから，とにかく志願者の確保ということをやらなければいけない。それから，次の教育の質の保証というところでございますが，これは，出口管理も含めて受け入れた学生の教育をきちんとやると，そして，高度化ということに関連して専攻科の充実，大体宇部高専でも本科卒業生の４割近くが大学への３年次編入とか，或いは，専攻科への進学という進学者が４割程度になっております。そういう実状を考えて本科での教育の徹底，それから専攻科の充実，それをやるための外部評価という形でのＪＡＢＥＥということで，教育プログラムをきちんとあるレベルに保つようにしたいと，それから，教員のＦＤといいますけど教員の教育力の向上を図らないといけないということから，特に新任教員に対する研修といいますか，コンサルテーションということをやりませんと中々上手くいかないと考えております。そして，次の地域・社会連携ですけれども最初に謳った地域に役立つ宇部高専ということに関連するのですが，志願者の確保とか或いは教育の質の保証というところで，特に専攻科の充実というところでは教育面でも企業との連携で課題の題材としてそういう実際のところ，どういうことを問題にしているか，そういうところを取り込みながらトレーニングさせるということを含めて，単なる共同研究とか産学連携ということでの地域・社会連携以外に教育に関する地域・社会連携も強化しなければいけないというふうに捉えております。そして，大体この志願者の確保，それから教育の質の保証それから地域・社会連携，これを支えている教職員，それから教職員によって教育を受ける学生諸君の教育環境の整備及び活用をやらなければいけないと，ここで，注意しなければいけないのが，学生支援，それからメンタルヘルスケアこういうもの含めてのハード面の教育環境の整備とソフト面での教育環境の整備ということが必要で，そういうことをやる時に宇部高専の少し弱いところと認識しているのですが，情報の共有化ということが上手く出来ていない，それとリンクして色々なプロジェクトで色々やられるのですが，連携ということが上手くいっていない，このあたりを意識しながら５年間やっていきたいと思っております。

このような全般的なことを外部有識者の方々の意見を色々反映して進めていきたいということで，運営諮問会議で色々とチェックしていただきたいとこういうふうに思っております。とにかく高専の個性化，高度化ということがこの５年間で色々と要求されておりますので，そういうことを上手く乗り切るようにしたいと，そしてさらにプレゼンスを上げたいと，下の後半でこの宇部高専の教職員の在り方というふうに纏めておりますけど，私も大学に長く身をおいた者として，こちらの高専を見ておりますと教職員の用務の多忙さというかこういうのを見ておりまして，職務のカテゴリーというと，まず，教育というのが主体で教育がありまして，それに地域・社会連携という，これは共同研究だとか産学連携だとか或いは上の項目の志願者の確保あたりでの学校の説明会とかそういうことをひっくるめて地域・社会連携で，それとさらに研究，学生指導，学校運営とあるかとそのあたりで，とにかく教育に専攻科の充実も含

めて教員には研究者として現役であって欲しいそういうことを含めて教育に徹する，そして後は，研究，学生指導，学校運営このあたりはそれぞれの持ち場といいますか，役割分担ということでその出来るだけ教職員が疲弊しないように連携をとりながら，上の中期目標・中期計画を実行していきたい，そういう考えで取り組もうと思っております。

簡単ですが，以上で説明を終わらせていただきます。

（三浦委員長）

はい，どうもありがとうございます。

膨大な中身を簡潔に説明していただきありがとうございました。

何か，ご質問，ご意見等ありませんか。

（光井委員）

宇部の産業界と言ったら大げさになりますが，諸々代表しまして意見を述べたいと思います。

まず，志願人数の対応・対策ということで，前回，私が来た際に，確かに工学部も同じですが理工離れを子供達がしているというお話で，何とかそれを防ぐために対策を講じなければいけないということで，その時お願いしたのは「科学の館」というものを作って，常盤公園の中で子供がたくさん来た時に，科学のおもしろさを学生さんが子供に教える，そういうことをすれば科学好きな子供が増えるのではないかという提案をしましたけれど，残念ながらまだ実現しておりませんが，今，市の方とも話をして進めていますが，三浦先生にも時々言っているのですけど，この前冬にイルミネーションを工学部でやられましたが，非常に市民の反響が良かったです。やはりあのようなことは公の場で学校が開催していただくと非常に子供達もそういうふうに思うのではないかと思います。

それから，宇部の定着化ということですが，今日，西山副市長がおられるので，私が言うのはどうかと思いますが，三浦先生も委員で宇部市の総合計画というのをやりまして，纏まったものが学園都市という名前が入っております。これは議会でも承認されたと聞いております。今まで，宇部工業都市，宇部は工業都市というようなことで工業都市になっていましたが，今度はそれに学園都市を加えることになりましたので，先生方もぜひそのあたりを御承知おき願いたいと思います。では，どういうふうに今後具体的に学園都市にふさわしいものに取り組んでいくのか課題はありますが，そういう方向にいっているということをご報告します。

そして，就職で先ほど資料を見ましたら，宇部高専の学生はものすごく求人倍率が高いので，宇部市に地元に定着しなさいとむしろ学生の方へ指導していただきたいと思います。６月に県と一緒になって商工会議所が就職説明会を全日空ホテルで開催しておりますが，その時にはすでに宇部高専の学生は全部内定済みなのです。そういうところもどういうふうに改善していけば良いのか，確かに中小企業の方でも結構元気な

ところもありまして，そういう意味では理工系の学生を求めておられる方もおられますし，やはり学生がそっちの方へ向いて貰わないとなかなか地元に定着することは難しいかと思います。宇部は，興産とかセントラルとか色々な企業が結構求人を出しておりますから採れるのでしょうけど，中小企業は先輩もいないと難しい面があると，これは定着化の一つの課題ではないかというふうに思っております。

まだ，大大的には発表しておりませんが近々に発表しますけど，宇部のメディア100プロジェクトというものを考えております。まさに，宇部の色々な事業の活性化をしていく，新しい事業を立ち上げたいということで今後やっていこうと思います。そうすると，かなり求人の方も市内から出てくるだろうと思います。ただ，これは時間がかかりますし，すぐとはいかないだろうと思っております。

また，創立50周年という話がありましたが，市の方も来年から90周年事業が始まりますので，高専の50周年と市の90周年とが一緒になって盛大ないいものにしていただきたいと希望でございます。

あと，ニューキャッスルと宇部市は姉妹都市を結んでおります。今年30周年を迎えますので，ニューキャッスルへ11月頃に訪問団を派遣する予定にしておりますので，ぜひ，学生及び先生方一緒に参加していただければと思います。詳細については，後日連絡させていただきます。

それから，研究テーマで，先生方は分かっておられると思いますが環境という問題，特にCO_2，これは宇部市もすばらしくたくさん出ている街の１つなので，削減策というものをぜひ研究していただきたいと思います。宇部市は環境から全国的に注目された都市なので，環境というキーワードで省エネルギーのすばらしい研究が出てくると，また宇部市の環境というものが全国的に脚光を浴びると思いますので，どなたかトップフローでやっていただきたいと思います。以上です。

（三浦委員長）

どうもありがとうございます。

色々な観点から発言いただきました。

（福政校長）

非常に色々な角度から言っていただきまして，ありがとうございます。

２点ぐらい言いますと，就職のことですけどインターンシップで，専攻科生だとかが山口県内の企業に行きますと，最初は県外に出ようというような希望を持っていたのが，インターンシップを契機にこういうような企業もあるのかというふうに再発見といいますか発見して地元企業にと聞いておりますので，こちらとしましても学生諸君に県内にどのような企業があってどういうことをやっているのかというそういうような広報活動をテクノフェアとかそういうものを通じて企業側から説明会をして貰って，特に学生諸君に知って貰う機会を作ってやりたいと思っております。一度は，外に出てもさらにUターンで戻ってくるそういう学生についても学校が卒業時に送り出

すところで縁切りにならないで，きちんと把握していてそういう学生へのケアをするそういう仕組みをつくりたいと思っています。

それから，環境について言いますと，我々のところ５学科ありまして，それぞれの専門学科での教育をするのですけど，宇部高専に入ってくる学生全員に共通的な広い意味での環境というものを各学科の教育が縦糸であるとするならば，宇部高専に入ってくる学生全員に横糸のような感じで広い立場で環境ということを捉えるようなそういう科目ですね，そういうようなものを新たに作るような試みもしたいと思っております。

（西山委員）

市の方からの立場でちょっと色々と話をさせていただきます。今，光井会頭から私の言わなければならないことを先に色々と言っていただきましたので，それは省きますけど，先ほどありましたように総合計画を12月に策定し議決をいただいて，今，前期の実行計画を作っております。切り口としては，環境，安心，市民力，地域ブランドということをやっております。環境につきましては，先ほど光井会頭からありましたように，従来から宇部高専とは包括提携を結ばせてもらっておりますので，色々な事業を展開しておりますけど，省エネとか温室効果ガスの研究会とか引き続きやっていきたいと思っておりますので，ご協力をお願いします。

それから，学生の街と言いますか教育の街ということも大きな課題なので，要するに市民と学生がもっともっと交流する必要性があるのではないかということで，１例としては，現在，旧宇部銀行の指定管理者を募集しております。この中にも街中学習室とか学生等が交流出来るような場とかそういうものを作ろうとしていますので，ぜひ，学生の皆さんも街の中に出て来ていただきたいという考え方もしております。こういう中で街づくりに，せっかく包括提携をさせていただいておりますので，勿論，色々な審議会委員等にたくさん出て来ていただいておりますけれど，引き続き一緒にやっていきたいと考えております。

また，先ほどから就職のことが出てきております。学生の卒業時点では非常にすばらしい成果を挙げておられることは充分認識しております。地元に，ぜひ，就職していただきたいと思いますが，ただ，なかなか就職の場が無いということは永年の懸案であって，そういう働く場を作って欲しいと随分言われておりますけれど，なかなか一朝一夕いかないので，苦労しております。今，一番多いのが，やはり一回出た人達がＵターンして帰ってくるケースがたくさんあろうかと思います。今，校長からお話がありましたけど，これについては数年前から宇部高専の方と色々と協議して，そのＵターン者をきっちりチェックとはおかしいですが，そういう方達に市内の中小企業も含めて就職出来るようなシステムが出来ないかと，そうすると帰ってきやすくなるのではないかと思っております。市の方も採用は細々として，どうしても職員の削減というのがあって，大量の採用はこれからも出来ないのですが，昨年から中途採用を入れておりますので，そういうところに募集が来た時には，ぜひ，Ｕターンで帰って

きたいというのがありましたら応募いただければ，そのまま採用出来るかどうかは分かりませんが，ぜひ，そういうこともしていきたいと思っておりますので，よろしくお願いします。

（三浦委員長）

はい，どうもありがとうございました。

何か高専の方からありませんか。特にございませんでしょうか。

他に委員の皆様から，ご意見，ご要望等ありませんでしょうか。

（金重委員）

私，Ｔ＆Ｂの会の会長をさせていただいておりますが，その中で企業と宇部高専の連携というか連携をやるという目的で作っておりますが，なかなか上手くいっていないというのが現状です。先ほど，就職の問題がありまして，特にＴ＆Ｂ会員というのは60社くらいあるのですが，中小企業を対象としておりまして，会員の会社の皆さんの意見というのが，例えば就職で宇部高専にお願いをするということで，勿論先ほど募集の中に地元中小企業がかなり入っていると思うのですが，はっきり言って無視をされる。あまりブランドが無いといいますか地元企業への就職を頭から希望されない，或いは先生方にお願いがあるのですが，今年一人採用してくれるのか，引き続き継続して採用していただけるなら一人ぐらいは希望者を何とか出しましょう，中小企業では，高専レベルの学生を継続して毎年一人ずつ採用するとか二人採用するとかなかなか出来ません。スポットの連続ということだと思います。ぜひ，希望者がおられたら来年も再来年もと言わないで欲しいという私の個人的希望です。それと，企業側からしても少しＰＲが足らないということで，色々なチャンスをいただいておりまして，企業のＰＲ色々な技術のことを中心にＰＲする機会はあるのですけれども，学生募集とか就職，こういう人を人材を募集してますというＰＲの場をもう少し増やしていきたい，Ｔ＆Ｂとか色々なところを経由して徐々に増やしていきたいと思いますので，ぜひ，宇部高専側もご協力をお願いしたいと思います。

もう１つ，再就職の件ですが，私も前校長に色々と御提案申し上げましたけれど，例えば新卒の方の希望，色々な会社の求人欄を掲示板に出してあるのですけど，中途採用の掲示板コーナーをぜひ作って欲しいと思います。我々としても中途採用というのは最近多くありまして，別に中途採用されたからといって，企業としても不利なことはありません。昔みたいに「お前中途採用だからダメだよ」ということはありません。中途採用の方で現に出世された方もおられますし，活躍されておられる方が多くおられます。全然企業側としても中途採用に対するハンディキャップは無く，これはおそらくどこの企業もそうではないかと思います。ぜひ，中途採用コーナーを設けていただければ企業側もそういうところに積極的に掲示していくと，ただし，中途採用の場合は，新入社員と違ってこういう専門というかこういうことをやるためにこういう人が欲しいとかもっと具体的に採用人材の中身を表示します。ぜひ，そういうこと

も表示板には掲載して欲しいと思っております。

地元としても，宇部高専の優秀な学生を求めておりますし，決して就職先がないということではありませんので，逆に，企業側からすると来て頂けないというのが本音の感じがしております。ぜひ，ご協力をお願いします。

（三浦委員長）

はい，ありがとうございました。品川委員，続けてどうぞ。

（品川委員）

今のことに関連しますが，同窓会としてもこれの計画にもありますように，Uターンの人達の地元への就職斡旋を含めて，学校側と連携してやりたいと思いますので，ぜひ，そういう計画される際には，お呼びいただきたいと思います。私も色々な会社の方から，こういう人が欲しいのだけど誰かいないだろうかとUターンの人が，というのは時々あるのですが，なかなか同窓会活動もそんなに活発ではありませんので，どうしても研究室の先生の方に行かれる人が多いだろうと思います。そのあたりも含めてこの活動は，ぜひ，実行してUターンというのは非常に即戦力になりますので，地元の企業にとっては非常にいいことだと思いますので，よろしくお願いします。

（福政校長）

金重委員，品川委員からこの就職に絡んでの話で，Uターンについて色々とご発言いただいたのですが，私どももそれを考えておりまして具体化したいと思っております。ぜひ，連携して，そういう宇部高専としての学生のデータベースというのは，実は，宇部高専に対する色々な意見を本音で言ってくれる情報源でもありますので，卒業生のきちんとしたバンクを持つというのは，宇部高専としても非常に今後の展開を考えるうえで，財産になると思っておりまして，ぜひ，作っていきたいと思っておりますので，よろしくお願いします。

（椎木委員）

私ども産業技術センターなのですが，研究職の職員が現在４１，２名おります。その中で，高専関係の卒業生が結構おります。７，８名おられ，その中に宇部高専の卒業生もおられます。そういう意味では大変お世話になっております。

学生を集めるという意味では，やはり何かアドバルーン的なものが何かあった方が良いのではないかと気がします。宇部高専といったら何か，こんなものやっているよというものが見えると学生も集まってきやすいし，ＰＲもしやすいのではないでしょうか。やはり，私ども考えるのですけど，横並びで高専というものがあった場合は，別に何とも思わないのですが，この高専は何か旗が揚がっているよと，１つ２つで良いと思います。その１つ２つの旗といいますか，それを少し立てて行って，それを中心にＰＲしていってということが将来の宇部高専の発展といいますか，学生が集まっ

てくるのに繋がるのではないでしょうか。私ども今，産学公連携ということで，この１～２年連携ということで大学とも一緒にやっているのですが，高専ともぜひやっていきたいと思っておりますので，そういった研究といいますか，そういう分野を少しずつ持っていって学生を集めて，そういった卒業生を出してということが発展に繋がる気がします。

（三浦委員長）

はい，どうもありがとうございました。それでは，今後，教育のこともありますので，一応，ここで休憩させていただきます。

（休　　憩）

③現在の教育プログラムについて

（三浦委員長）

それでは時間が参りましたので，議事を始めたいと思います。

３つ目の議題ですが，現在の教育プログラムについて，小倉教育点検・評価委員会委員長からご説明願います。

（小倉教育点検・評価委員会委員長）

本校の現在の教育プログラムについて，教育点検・評価委員会の小倉から報告させていただきます。この教育点検・評価委員会というのは，昨年度まではＪＡＢＥＥ委員会と称しておりました。ＪＡＢＥＥというのは，日本技術者教育認定機構，先ほどから何回か出てきていると思いますが，そういう外部の評価に耐えるための委員会でしたが，今年度からＪＡＢＥＥへの対応だけでなく，より広い観点から本校の教育点検・評価していく委員会として新たに発足した委員会であります。

報告内容ですけど，先ほどの橋本副校長の話と少し重なるところがあるので，省略しながらいこうと思うのですけど，高等専門学校の設置目的，高専の教育システムの特徴，本校の学習・教育目標，各学科の特徴及び専攻科については，省略させていただきます。本校の教育改善活動，実際の取り組み例，本校のＦＤについて，そして最後に本校教育プログラムの継続的改善システムについてご紹介させていただこうと考えております。

設置目的ですけど，アンダーラインの部分だけですが，実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することが高専の設置目的であります。そのため

に，５年間という短い期間で，高校３年プラス大学４年の７年間に相当する教育を実施するということで楔形の教育ということが副校長の方から出たことと思いますが，学年が進行するにつれて専門科目が増えていくといったような構成になっております。そして，実践的な技術者を養成するためには，実技を重視したカリキュラム設計ということになっております。これは，その例でありますけど，学習する座学と実技系の科目ということで電気工学科の例であります。１年生でパソコン実習，２年生で電気基礎実験とプログラミング実習，そして３年生で電気磁気学の実験及び電子工学実験又はプログラミング実習，４年生で電子回路或いは電気機器実験などこのように通信や電力，制御，計算機器に関する実験，電気製図といった物理系の科目が充実しております。こういった実技系の科目を通して実践的な技術者，実際に手を動かせる技術者というものの養成を行っております。もう１度設置目的に戻りまして，実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するということで，副校長の方からありましたように創造力を備えものづくりを得意とする人間性豊かな技術者の育成を目指すということを本校の学習・教育目標として掲げております。この緑色の要覧の４ページですけれども，４ページの左の下の方に，よりこれを具体的にした学習・教育目標Ａ～Ｇというものが示してあります。先ほど副校長が学習・教育目標３本柱と言っておりますけど，まず１つ目の柱である「創造力を備え」という部分に対してＡ～Ｃという３つの学習・教育目標を設定しております。また２つ目の柱である「ものづくりを得意とする」という部分に対してＤ・Ｅという２つの学習・教育目標を設定しております。３つ目の柱である「人間性豊かな技術者を目指すために」というものに対してＦとＧ２つの学習・教育目標を設定しております。これらＡ～Ｇまで７つの学習・教育目標というのは，本科及び専攻科，全く同じ文言であります。学科が違っても或いは専攻が違っても文言としては，全く同じであります。何が違うかといいますと到達レベルが違う，その到達レベルの違いの例というのがこの表に示されてあります。学習・教育目標Ａ，好奇心と探究心を常に持ち，新しいものの創造開発に向けて粘り強く努力を継続出来る持続力を身につけること，こういう学習・教育目標に対して，本科課程これは機械工学科を卒業した学生が生産システム工学専攻に入学した場合を想定しているのですが，本科課程においては基礎となる物理，化学の知識と理解力を身につけ，論理的なものの見方や考え方が出来る。専門分野における実験技術能力を習得する。課題に挑戦できる能力を有し果敢に挑戦できる実践的能力を習得する。こういう到達度を達成するためにこのような科目が機械工学科に設定してあります。生産システム工学専攻では同じ学習教育目標に対して，高度な物理学・化学の知識を習得し，自然現象が理解できる。また，社会の仕組みや実務問題を理解できる。総合能力を有する開発型技術者・研究者に必要な能力を養う。という到達度を設定しております。それに対して，生産システム工学専攻ではこのような科目を設定しております。他の学習・教育目標に対しても同じで，個々の文言は本科課程においても専攻科課程においても共通しておりまして，その到達度というものが異なるというようになっております。これが，機械工学科の入学案内より引っ張ってきた概要でありま

す。このあたりは省略させていただきます。専攻科も同じように入学案内から引っ張ってきたものですけど，このあたりも省略させていただきます。

それで，本校の教育改善活動でありますけど，まず学科会議でのカリキュラム改善などが挙げられるかと思います。例えば，学科でカリキュラムを改善した場合には教務委員会での審議を経て最終的には運営委員会の裁定を受けて実際に改善というものが実現する。専攻科に関しては，専攻科委員会が改善を実施して運営委員会がそれを認定するといったような形で改善が進んでいきます。そういった学科会議主導で行われたカリキュラム改善活動の例というものが次のスライドに示しております。副校長が先ほど申しましたように，機械工学科というものはもともと２クラスありました。それがＳ６３年に２クラスのうちの１つを改組して制御情報工学科としてスタートしました。これはどうしてかと言いますと当時社会の要求としてメカトロニクスに関する技術者の養成といった要望が強かったということで，単なる機械でなくて情報や電気電子といったものを複合化してこの３本柱からなる制御情報工学科といったものを立ち上げたわけであります。制御情報工学科は設立当初，しばらくの間はかなり人気も高く，就職も良好でした。しかしながら，小・中学校の学習指導要領の改訂とか色々な問題がありまして，学生にとってみるとこの３本柱の３分野の専門工学の取得といったものが負担になってきたと，学内的には他学科との違い，具体的には機械工学科もメカトロ志向を持っておりその差別化というものが明確ではなくなってきたということと教員という観点で立った時に，この３分野に精通した教員の確保といったものも中々難しくなってきたということで，平成 19 年にカリキュラムの抜本的な改定を行いまして，この３本柱というのを止めて情報に特化して情報技術者の養成というカリュラムの改定を実施しました。平成 23 年度にその改定カリキュラムの完成年度を迎えることになります。その平成 23 年度以降の卒業生の就職状況，つまり出口の検証を行いながら，さらにカリキュラムの改定を進めて行こうというのが制御情報工学科の例であります。

また，学科内及び学科間の教員同士を連絡させるネットワークという草の根の活動とも呼べるようなネットワーク組織による改善活動を本校では実施しております。そのネットワーク組織図がこの図であります。こういう形にしたのは，例えば富士山のような山をイメージしてこの図にしました。麓に一般科目があると，社会教室，英語教室，国語教室，麓から山に登る際にどの学科を通って登って行っても，電気工学科を通って登っても機械工学科を通って登っても最終的な到達度目標としては同じであるということで，各学科の中にもまたネットワークが存在していて，学科間の共通科目である英語，情報，物理，数学といったようなネットワーク或いは専攻科の共通科目系のネットワークといったものが存在しております。そういう学科内のネットワークの例をお示しします。これは，機械工学科内のネットワークの例でありまして，工作，材料，機械力学，材料力学系のネットワークとしてこのような科目を担当しております。これは同じようなジャンルの科目を１つのネットワークの中に纏めて，お互いの授業の中身というものを点検しあう，それを通して重複の度合いとか或いはＡと

いう科目の中でこういうことを教えてあるのならＢという科目ではこういう教え方をしようとかここまで教えようとか或いはＡという科目の中でここまで教えて欲しいといったような要望を出し合ったりすることによって教育を改善していくというのがネットワークの目的であります。学科間のネットワークの例がこれであります。数学と物理のネットワークの例です。あと英語と情報及び専攻科の共通科目系といったネットワークがあります。数学のネットワークの例で役割をご紹介しますと，実際に数学を担当する一般科の数学の教員を中心にしまして，各専門学科から代表者が１人このネットワークに参加しております。学科ごとに数学の重点をおいて欲しい項目ということが異なっております。そういうものをこの数学の方へ伝えて，うちの学科ではこういう項目をこの時期までに教えて欲しいとか或いはここを重点的に教えて欲しいといったような要望を出して数学に関する教育を改定していくと，物理も同様，英語も同様，情報も同様ということで学科間のネットワークというものが存在しております。

本校のＦＤについてですけれども，各科年２回，一般科を含めて年 10 回以上公開授業を実施しております。講師と聴講者の懇談会を実施しまして，その際にその授業における長所とか或いは改善点といったものを話し合っております。また，学内でＦＤに関する講演会を実施しております。メインテーマとしては，平成 20 年度が勉学意欲を増進し学力を向上させるための教育改善，平成 21 年度が学生の勉学意欲低下とその対策といった非常に頭の痛い問題なのですが，こういったものをお互いの経験談などを紹介しあって，ＦＤ，教育の仕方の改善を図っていくといったようなＦＤ講演会を実施しております。また，学生の心の悩みやハラスメントに関する講演会を年数回実施しております。また，学外のＦＤ講習会へも教員を派遣しております。延べ人数は平成 18 年度が 10 人，平成 19 年度が 22 人，平成 20 年度が 24 人というふうに派遣する人数がどんどん増加している，ＦＤもどんどん盛んになっていくという状況にあります。

最後になりますけれども，本校の教育プログラムの継続的改善システムについて，ご紹介させていただこうと思います。この図に関しては，少し小さいので１番最後のページにこの図をＡ４サイズで印刷したものを配布しておりますので，もし，見難いようであればそちらの方をご覧になっていただければと思います。まず，各委員会が，例えば，専攻科委員会，教務委員会，学科会議，教員間ネットワーク或いは入試委員会といったものが毎年，教育内容・手段・環境などを設定して実施し，点検して改善していきながら，与えられた作業をこなしてまいります。これが教育改善サブループというふうに称しております。各委員会或いは各部署は必ず議事録を残すようにしております。年度が替わりましたら，その議事録を集めて教育点検・評価委員会がその議事録を点検します。前年度の各委員会或いは宇部高専全体の活動というものを点検しまして，この部分の活動が足らないのではないか，或いは足らないだけではなくて，この部分の活動は十分優れているのではないか或いはここをこういうふうに改善する余地がまだあるのではないかといったようなことを点検して，点検結果を自己点検・評価委員会へ提出します。自己点検・評価委員会がそれを総合評価して組織・運営検

討委員会に総合評価の結果を流します。組織・運営検討委員会でその改善を実施すべき委員会，部署を決定しまして，必要に応じて運営委員会の決定を経て，その改善指令を出します。そして，また１年間活動が実施される。次の年度の当初に再び点検するということで教育改善スパイラルループというものが進んでまいります。また，学習・教育目標に関する改善ですけれども，学習・教育目標の水準の設定及び改善というものは，広報委員会と教務委員会が，一般企業或いは卒業生といったいわゆる社会及び在校生に対してそういう目標というものを公表して，目標の是非或いはレベルの設定の是非というものをアンケート調査をします。そのアンケート調査した結果を自己点検・評価委員会が総合点検し，評価し，その目標が相応しいものなのか，レベルが相応しいものなのか社会から取り残されていないかというような社会の要望に応えているかどうかというものを点検して改善していくという目標改善スパイラルループというような大きく分けて教育改善スパイラルループと目標改善スパイラルループという２つのループを廻しながら本校の教育を継続的に改善していくというのが，本校の教育改善システムです。その中で，運営顧問会議，外部評価委員会というものがこの部分とこの部分，２箇所に出てまいります。この２つの委員会が，統合されて本運営諮問会議に変わりました。開催頻度もこれらの２つの委員会よりは高い頻度で開催していくということを校長が申しておられましたので，こういう運営諮問会議を通してこういう報告をすることによって，委員の皆さんから色々なご意見とかご助言などをいただきながら，教育プログラムの継続的改善に取り組んでまいりたいと思っております。よろしくお願いします。以上です。

（三浦委員長）

はい，どうもありがとうございました。

何かご質問等ございませんでしょうか。

（光井委員）

私，この要覧を見まして，何かここは化学の学科が無いからかもしれませんが，化学がすごく少ないと感じました。日本の工業というものは，自動車産業とか機械も多いですけど，本当は化学工業が多くてこれがどんどん進んでいっているのですが，教養で２単位，２単位と書いてあるのですが，これぐらいで果たして技術屋としてから，化学工場に勤められるかなと思いました。私は，本当は機械出身なのですが高校の時にすごく化学が好きだったので，化学工場の工場長をやらせてもらったのですが，実際，化学というものは将来，中間管理職になられる時に物凄く大切なのです。なぜかというと爆発とかそういう面は管理者として必要なのです。常識的に考える化学反応とか。この要覧を見たら，機械系とか電子制御とかそのような分野には強いすごく偏った教育内容になっているけど，本当にこれで良いのかと，しかも高校の教養も全てここでやられるわけですから，高校の時にだいぶん化学を教えるのですが，要覧を見ると２単位，２単位で終わってしまう。本当に技術屋としてこれで大丈夫なのかと不

安になったので，そのへんはどう考えておられるのでしょうか。

（金田一般（理系）科長）

一般科理科系の科長ですが，ご指摘のように化学を１年で２単位，２年で２単位ということで修得してもらっています。ただ，これは機械，電気，制御情報工学科はそうですが，物質工学科ではもう１つの単位で化学の授業を教えられます。確かに少ないと言われますけど，全体の単位数の枠の中で色々な科目に割り振っていった場合に，こういう単位になったということで，化学の先生にとっては単位の多い方が教えやすいというのはあるでしょうけど，全体の大枠の中でこういうふうに決まって，今，継続してやっております。

（光井委員）

どこの高専も化学の単位は，このくらいでしょうか。

（金田一般（理系）科長）

私が知っている範囲では，大体このくらいで，「２，３」というケースもあったと思います。

（三浦委員長）

今のこれは，共通というか教養とか専門基礎としての化学ですよね。

（金田一般（理系）科長）

はい，そうです。レベル的には高校生が修得している化学のレベル内容です。

（竹内物質工学科長）

物質工学科長の竹内です。今，ご指摘いただきました化学系の科目が少ないのではないかということですが，実は化学系の学科がありまして，物質工学科というのが正にそれでありまして，要覧の 30 ページを見ていただくとこの中に物質工学科が載っております。先ほど，少し説明があったと思いますが，以前は工業化学科と申しておりまして，これが物質工学科に改組しております。化学と一部バイオ系の教育課程を持っております。従いまして，本校にも化学に関する学科はありますので，よろしくお願いします。

（三浦委員長）

そういうことでよろしいでしょうか。

他にいかがでしょうか。

（三浦委員長）

私から一つ簡単にお聞きします。

最後に継続的教育改善システムに関するご説明がありましたけど，これはいつからやられておられますか。

（小倉教育点検・評価委員会委員長）

本校はＪＡＢＥＥの認定を受けておりますので，その中でこういう継続的な改善というものが認められているということの対応で，それが始まりましたのが平成15年です。

（三浦委員長）

ＪＡＢＥＥは，専攻科でやられておられるのですか。

それぞれの本科ではなくて。

（小倉教育点検・評価委員会委員長）

本科の４・５年からです。

（三浦委員長）

本科の４・５年からですよね。

ただ，どうしても本科の色々な学科と専攻科との両方できちんとと言いますか，意思の疎通が出来ないとＪＡＢＥＥが上手く行かないと。分かりました。

④地域連携・社会連携について

（三浦委員長）

ほかにいかがでしょうか。

では，また，教育については時間がありましたらご意見いただきたいと思います。

次に，本日の最後の議題になりますが，地域連携・社会連携につきまして，まず，山﨑地域共同テクノセンター長からお話いただきまして，また，橋本副校長からもお話いただけたらと思います。

それでは，お願いします。

（山﨑地域共同テクノセンター長）

地域共同テクノセンター長の山﨑です。私の方では，産学官連携につきまして，ご紹介しますが，手元に配布されております青色のリーフレット「地域連携の拠点を目指して」及び冊子「テクノセンターのニュース＆レポート」の２つの資料を用いまして，説明させていただきます。

こちらのリーフレットですが，これは今年度４月に作成しまして，主に産学官連携

について，ご紹介をさせていただきます。

５月に開催しましたキューブサロンで外部の方に配布させていただきました。このリーフレットを開きますと，中に折り込みの資料がありますけど，ここに地域企業との連携活動実績というものがあります。１番トップに企業技術相談受付の状況が，過去５年間分記載されております。こちらは，おおよそ平成18年度以降は毎年100件以上の技術相談を受けております。詳細については，冊子資料の51ページになりますが，こちらを開けてください。こちらに同じような表がありますが，詳細が載っております。次の52ページを捲っていただきますと，こちらに過去５年間の卒業研究及び特別研究のテーマの企業のニーズ取り組み状況を紹介しております。先ほどの折り込みチラシの３番目にも一覧表が載っておりますけど，おおよそ毎年本校では，本科５年生と専攻科合わせて200件弱の研究テーマが稼動しております。この中で地域の企業のニーズを取り込んであるのは，おおよそ25%～30%でそういった格好で推移をしております。詳細については，また資料を見ていただけたらと思います。冊子資料の 42ページをお開きください。こちらは，過去５年間の外部資金の獲得状況を示させていただいております。外部資金というのは，科学研究費を初め企業との共同研究や受託研究，それから寄附金と呼ばれるものでありますが，こういった種類のものがあります。各年度，おおよそ１年間で５千万円弱程度です。そういった額のものが獲得出来ております。詳細については，また，資料を見ていただきたいのですが，このような研究或いは技術相談に対応する，これから外部資金を獲得するうえで，先ほど紹介しましたリーフレットのテクノセンターの建屋があります，こちらの方を捲っていただきますと，山口大学にははるかに及びませんけど，本校の分析装置群がありまして，共同研究，それから技術相談等を通じてこのような装置の方も企業の方に活用いただきまして，それで地域貢献をさせていただいているということであります。リーフレットの赤色の方になりますが，センターの概要，ソフト面と書いてありますが，こちらを開いていただきますと，テクノセンターとして地域に貢献しております様々な事業について，記載しております。こちらにつきましても，詳細を冊子資料で紹介させていただきますが，４ページを開いてください。こちらには主な行事ということで紹介しております。この「ニュース＆レポート」は，昨年20年度の実績について纏めておりますけど，まず，最初に紹介しますのが，公開講座であります。年10件程度開講しております。今年度も11件開講しましたが，内容は小・中学校生向きの科学教室，ものづくり教室を初め，地域の方が活用できる電気主任技術者，或いは環境計量士等の資格に対応する講座などを盛り込んでおりまして，昨年度は175名の方に受講していただきました。それから，５ページになりますが，こちらは特別教育研究費成果報告会というようなものです。こちらの下の方に報告会の写真を載せてありますけど，学内の競争的資金の獲得者による成果報告会であります。昨年度から広く一般公開させていただいておりますが，おおよそ毎年20件程度このようなものを獲得しております。本校のホットな研究シーズを紹介しております。次のページの６ページでは，地域中小企業訪問と書かれてありますけど，地域の企業の方を宇部商工会議所のご協力

をいただきまして，９月上旬～10月末にかけまして昨年度は実施しました。中小企業の方に本校のことを理解いただくことと，企業の課題を抽出させていただき，少しでも役に立てればという目的で，実施しております。昨年度は，14社回らせていただきました。この右のページに宇部高専の研究シーズとのマッチング状況を記載しておりますけれど，実は私どもの各教員の研究シーズを抽出したものを作りまして，各社とのマッチング状況ということで，○ないし△等でアンケートを取らせていただいております。この研究ニーズでありますが，18ページをご覧ください。少しでも地域の方に私ども教員の教育研究シーズを理解していただいて，共同研究なり何なりと繋げたいということで，シーズチャートを昨年から作成しております。こちらの下の方にチャートがありますが，紫の製造産業，それから黄色の基盤技術，ピンクの環境バイオ等６つのカテゴリーに大きく分けまして，さらにその中に中分類を置きまして各先生方のキーワードを３つずつ挙げさせております。このようなものを作りまして，先ほど申し上げておりましたこちらのリーフレットの中綴じの紙をさらに開いていただきますと，2009年度版，ようするに最新版のシーズチャートもありますけど，こちらも見られるようになっております。こういった格好で本校教員の地域連携を促進出来るような対応をさせていただいております。また，元に戻っていただきまして，今度は９ページをご覧ください。こちらでは，地域の中小企業のための人材育成事業に関する報告を纏めさせていただいております。通称クラフトマンシップスタジオということで，今年度も実施しました。現在４年間継続してやっております。本校教員の講師による知的財産，それから設備といった物的財産を地域の企業に還元しようということで，実施しております。来年度も継続して申請をする，こういった事業展開するように準備しておりますので，よろしくお願いします。それから，14ページになりますけれど，先ほど企業に本校の教員が出向いて訪問するというのがありましたけど，逆に地域の企業の方に本校のことを理解深めていただこうということでお越しいただくのが学校見学会ということで実施しております。本年度は，宇部商工会議所とリンクした事業ということで，展開をさせていただいております。それから，右のページでありますけども，宇部高専シーズ＆ニーズシンポジウムというものを開催させていただいております。本校の地域振興協力会Ｔ＆Ｂの御協力の基にさせていただいておりますけど，地域のシーズ・ニーズに関する情報，それから意見交換の場として本校の教員から３件，Ｔ＆Ｂ企業会員から２件ほど講演をさせていただきました。そちらに写真がありますが，ホテル河長で11月にさせていただいておりますけども様子がお分かりになろうかと思います。それから最後になりますけど，次の10ページをご覧ください。先ほど校長からもテクノフェアという名前が出たかと思いますが，こちらについては昨年度から実施させていただいておりますけど，本校の学生に地域の企業のことを知ってもらおうということで，Ｔ＆Ｂ企業会員を中心としたブースの形式で企業会社技術説明会といったものを開催しました。学生に私どもは動員をかけて見る様にしております。それから，同時に専攻科の２年生になりますが，彼らの専攻科の２年間の研究成果の集大成をポスターによって，プレゼンテーションして貰おうと思い，

学生のプレゼンテーションを通じて本校の研究シーズを地域の方にお知らせしたいということで，そういった発表会も開催しております。因みにこれは今年度につきましては，2月19日(金)に開催しますけど，昨年度は右の資料がありますが，第1部宇部高専T＆Bテクノミーティングといったものが，企業の展示のことでありますが7社でありましたけれど,今年は増えまして11社の企業から展示されるということを伺っております。以上，こういったことをしながら，少しでも宇部地域に学生が定着出来るようなシステム，やはり学生が少しでも地域の企業のことを知らずに卒業するのではまずいですから，少しでも知っていただいて，また，仮に外へ出てからもこういった情報を頭に入れておけばUターンで帰ってくるのに少しでも参考になろうかと思いまして，こういった地域連携の事業をさせていただいておりますので，ご紹介させていただきました。私の方からは以上です。

(三浦委員長員)

はい，ありがとうございました。

それでは，続いて橋本副校長から説明をお願いします。

(橋本副校長)

今，地域共同テクノセンターを中心に行われていることを紹介いただいたのですけど，私の方は教務的な教育的観点から地域と連携している事業の1つを紹介しようと思います。

資料としては，2枚綴じたものがあると思います。平成21年度地域教育実施一覧表と書いた資料です。これは，最初，光井委員からちょっと子供の理科離れとか科学教室の話とか出ましたけれど，それに対応するような事業ではないかと思います。この内容は，本校の学生が地域の小学校・中学校へ出向いて，授業を行ったり実験を行ったり科学教室のようなものをやっているものです。資料の1枚目が，今年度，実施した例で，例えば1番上で神原小学校へ行ってオリジナルエコバッグづくりというようなテーマで小学生相手に実施したというような内容です。あと，色々実施しておりますが，3番目のところは宇部祭にも学生中心の企画で子供うけするような内容で実演をやっていると，これの特徴は学生がそういうふうに小・中学生に教えるということを企画して，実際に実施するのですけどそれを宇部高専では単位として認定しているということです。それで，その単位として認定している科目名が地域教育で，実態は学生による出前授業のようなものです。今年度，小学校が十数校，中学校がすこし少なく3校なのですが実施しております。2枚目は，一例として写真を付けておいたのですけど，2枚あります。1つ目は電気，たまたま私が電気なので電気から情報を得易かったので，電気の関係者が実施したテーマの写真を貰ってきたのですけれども，上側の写真は小学生相手に電気の波形について説明しているところです。そういう授業形式でやっているところです。ボードの前に立っている3人が本校の学生です。座っているのが小学生です。それから下側の写真は，やはり3人ほど立っているのが本

校の学生で，座っているのが小学生です。ここでは，小型の風力発電機の模型を用いて説明し，あと実際に風を起こさせて電気に変えるというような実験で，風を起こすのは子供たちに走らしたらしいですけど，走って風を起こして風のエネルギーが電気に変わるというようなのを体験させたそうです。

子供たちに科学の面白さを教えると同時に，将来的に宇部高専に入って，工学・科学に興味を持って宇部高専に入学してもらえたらということで，こういう学生の教育とともに地域の小・中学生への教育を行っているという事例の紹介です。以上です。

（三浦委員長）

はい。どうもありがとうございました。

今，出口それから入り口のという両方からご説明いただきましたけれど，どちらからでもいいでけど，何かありませんか。

（岡本委員）

中学校の立場からご意見を申し上げたいと思います。只今，地域連携の中の出前授業についてご説明をいただいたところですが，子供たちに科学の面白さを早いうちに知らせて，そして，中学校から高等学校等へ滑らかな接続を図って行くという意味からも，こうやって出前授業をしていただくというのは小・中学校にとって，とても有難いことです。調べてみますと，私は神原中学校の校長でありますが，神原中学校は平成20年度の秋に選択教科の学習で，ご来校いただいております。その時，聞いてみますと高専の学生さんが７～８人来られ，色々と教わったそうです。ただ，今，新しい新学習指導要領の移行期でその期間中であり，今，小・中学校は各教科とも授業数の確保と言いますか，それが色々と言われております。とにかく授業数を確保しなさいということが。だから，昨年も新型インフルエンザが流行した時は，出席停止した時間数は他の時間で取り戻しましょうということで，冬休みに授業をしたりといったことをやっております。従いまして，授業の中でそれをまた余分に出前授業をしていただくということは，少し難しくなっていると言いますか，そのような状況ではないかと思います。従いまして，中学校の割合が少ないというお話がありましたけれども，それもあるかなというふうに思っております。だから，例えば夏休み中なんかに出前授業していただくということになったら色々と大変さはあるとは思いますが，もっと増えるのではないかなというふうに思っております。以上です。

（橋本副校長）

ありがとうございます。

確かに，以前に比べると中学校の時間が取れなくなったというお話でしたね。それで，我々も数が減ったのは，そういうふうに聞いておりまして理解しております。あと，確かに夏休み中に実施できると良いと思うのですけど，高専の夏休みが８月～９月でして，小・中学校の夏休みは７月～８月ですね。だから，どちらも重なるところ

となるとお盆明けぐらいしか無くて，もし，そこで実施できればどちらも良いと思いますが，そこの夏休みの時期が違うというのがネックです。

（三浦委員長）

はい，ありがとうございます。

そのへんはよくご相談いただきまして，確かに良いことだと思いますので。

それで１つ気付きですが，先日，ある博物館の学芸員の人から話を聞きましたら，読めるということが大事なそうなのです。中身は分からなくても子供たちが。だから，例えばこの例で行きますと周波数という言葉が黒板に書いてありますけれども，多分これを説明しながら周波数ということを言われて，ふりがなを振ってないようですが，読めるということがとにかく大事なそうです。その時は分からなくても言葉が残るそうです。読めると。ぜひ，そういうことも参考にしていただけたらと思います。

他にいかがでしょうか。

産学連携の方も最初のところで，随分いろいろな意見がだいぶん出ておりますけど，何かありましらお願いします。

津田委員，まだ，お声をお聞きしておりませんので，何かありませんか。

（津田委員）

先ほど，Ｕターンの話がでましたけれど私自身がＵターンでありまして，私ごとでありますが昭和 42 年に宇部高校を卒業しまして，その後，大学に進学とともに外へ出ておりました。２年半前にそれまでしておりました検察官を辞めまして，Ｕターンしてまいりました。それで，弁護士を始めました。Ｕターンということで，先ほど話が出ましたけどなかなか郷里に戻るというのは，その何をするかということが難しいということで，Ｕターンの話が出ましたのでそういう面で，今後，お話の中で何か出来たらという感じが少しお聞きしておりました。今，申しましたように私自身がそんな形で主として長い間東京におりましたので，こちらへ戻ってくる際に，一つは住むところとあとは，次に仕事という点がどうしても問題になりますので，その点，先ほど言われていたようにＵターンについて，今後一緒に考えさせていただきたいと思います。以上です。

（三浦委員長）

はい，どうもありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

本日のすべて何でも結構ですので。

（西山委員）

先ほどと多少被るかも分かりませんけど，私ども中小企業の育成というものが大きな課題になっております。先ほどの中で中小企業の方も会議所と一緒に回っておられ

るということで，こういう形で連携を保っていただくのは非常に有難いことだと思っておりますので，こういう形の中で共同研究等が出てきて，大半の先生方はご存知かと思いますが，私の方は新規技術推奨費の実用化とか研究開発とかで，その大きなお金ではありませんが１件ずつ研究費等を出しておりますので，ぜひご利用いただいて，中小企業の技術力のアップに御協力いただけたらと思います。たくさんやっていただいておりますので，ご存知かと思いますが，よろしくお願いします。

（三浦委員長）

他にいかがでしょうか。

特に，ございませんでしょうか。

それでは，予定の時間が少し過ぎておりますので，このあたりでご意見を伺いするのを終わりにしようかと思います。

今後，また，宇部高専がますます充実していくために運営諮問会議のみなさんには色々とご提言いただければと思います。今日は，そういう意味では非常にたくさん意見が出まして予定の時間をオーバーするぐらいの意見が出ましたので，今後ともよろしくお願いしたいと思います。

私は，これで議長の方を終わらせていただきたいと思います。

（福政校長）

三浦委員長，ありがとうございました。

（７）閉会

（総務課長）

それでは，閉会にあたりまして福政校長より御挨拶申し上げます。

（福政校長）

委員のみなさん，本当にお忙しいところ御出席いただきありがとうございました。

時間が限られたところだったのですが，色々と御意見いただいて，本日伺った御意見の中でも，私ども分かっているつもりがきちんと現状をよく知らない点とか，新しい見方をするそういう参考意見が色々ありましたので，最初にも申しましたけど本当に今年度の押し迫ったところでの発会式ということでしたので，平成22年度からは年２回ないし３回ぐらいこういう会議を開催させていただいて，そして，我々の活動状況をお話し，御意見を伺いたいと思っておりますので，今後ともよろしくお願いしたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

（総務課長）

これをもちまして，第１回宇部工業高等専門学校運営諮問会議を閉会させていただきます。

本日は御多忙の中，誠にありがとうございました。